こんぶ一新聞

13.7.No.193
発行 市岡日出夫
責任 0883-88-5292

はじめて オープンカフェ

梅雨空だったけど、なんとか一日もってくれた二月三十日、はじめてのオープンカフェ心配しましたが、それぞれの繋りがよかったのか五〇名を越える人が寄って下さいました。

さくの想いが伝わったのか十時のオープンと共に、隣り近所の人が、コーヒーを飲みに足を運んで下さいました。

こんぶなカフェ（落ちあい場）ええなあ

十種類以上の和菓子、洋菓子、さくが京都や東京まで出かけて習って作った一品美味しさに以上に、その感覚に感動してしまいましたよ。

今時、何かをしようとすれば、「それいくらとお金が先行してしまう風潮の世の中、こういう場所があったらいいなあ、欲しいなあという感覚だけが、先にあり、せっせと努力をして、実現したのですから、まあすごいなあの一言です。

次々と、親見知りの人が来て下さり、話し声が続いたり、子供連の元気な事があったりと、ただそれだけでえ気がもらえます。

ダリが出れば、菓子類のおまけがもらえるカードもあったり、抹茶をいただいたり、ケーキ談義が続いたり差し入れの果物もあったりと、本当に、仲間内この楽し時間が過せる空間になった事間違いありません。

時に、祖谷には、美味しいコーヒーが飲めて、ゆっくり出来る場所がないので、本当に、こえな場所があればいいも人です。

若い人は、何処でもすぐ行けますが、少し年を取ったり、身体のどこかが痛くなったりして家の中に籠ってしまったりすると、話し相手もなくなりますが、顔を知ってるんが誰かがいて、ゆっくり出来る所があればちょっと行ってみるかという気をもってきます。

東祖谷の中でも、何所か、カフォケを楽しんでる場所はあるのですが、今回の様な「落ちあい場」というか「寄りあい場」的な力を、はないので、評判の方もよかったようです。

また、ちょうど三日に、祖谷の観光に来た旧知の人も寄って下さり、久し振りに元気なお顔も拝見できました。

いつもはお声だけでしたので、ええ時間をすごせました。

次回は、何時するか予定はありませんが、定期的に開催できればとおもっています。

コーヒー、紅茶もより一層、おいしい味を出せる様に腕を切かいておきますから、またこちらにお願いします。